



# 私たちはどこから来たのか？

トルコのカフカス人とチェチェン戦争

Where Do We Come From? Caucasians in Turkey see the Chechen war

**2005年7月30日**(土) 午後6:30 / 文京シビックセンター5階・中小企業振興センター研修室 A

報告者：ゼキエ・トスン (トルコからの留学生) 司会：大富亮 日時：7月30日 (土) 午後6時30分 (6時開場)

文京シビックセンター・交通：東京メトロ丸の内線・南北線後楽園駅徒歩1分 / 都営地下鉄三田線・大江戸線春日駅駅徒歩1分 / JR総武線・水道橋駅徒歩8分 会費：500円 予約・事前申込みは不要です。

主催：チェチェン連絡会議 連絡先：チェチェンニュース編集室146-0082 東京都大田区池上6-30-17 電話+ファックス：050-3329-3951

メール：ootomi@chechennews.org サイト：<http://chechennews.org/>

# 私たちはどこから来たのか？

## トルコのカフカス人とチェチェン戦争

Where Do We Come From? Caucasians in Turkey see the Chechen war



トルコには、19世紀に帝政ロシアによって追放されたカフカス（コーカサス）人の社会が存在します。今回の報告会では、日本に留学しているカフカス人のひとりで、チェチェンを含むカフカスの諸問題に取り組む「カフカスヤ・フォルム」に参加しているゼキエ・トスンさんから、カフカス人の歴史と、「フォルム」の取り組み、そしてチェチェン問題についての考えを聞きます。

### カフカス人追放とは



ピョートル大帝の時代から続いた、帝政ロシアのカフカスへの侵攻。幾多の民衆と抵抗指導者が戦って敗れたのち、カフカス人たちには二つの選択肢が与えられた。「カフカスに残るか、それとも外国に移住するか——」移住を選んだ人々は、オスマントルコ、ヨルダンなどに散っていった。

### プロフィール：ゼキエ・トスン

トルコからの留学生。イスタンブールで経営を学ぶ。現在は東京外国語大学との交換留学で日本語・日本文化を学んでいる。1864年に、カフカスからオスマン帝国に追放されたカフカス人の末裔。トルコの青年組織「カフカスヤ・フォルム」のメンバーでもある。フォルムは、イスタンブール

### 主催団体・チェチェン連絡会議とは

私たちチェチェン連絡会議は、チェチェン共和国で1994年から続いているチェチェン戦争に反対し、平和的解決を求める立場から、集会の企画や情報の発信を行っ

時は1864年、今からおよそ140年前のことである。移住先で生まれたディアスポラ（離散民）たちには、現在もカフカス人のアイデンティティーを保って生活している人も多い。

### チェチェン戦争

1991年のソ連邦崩壊を迎え、北カフカスのチェチェン共和国はロシア連邦からの独立を宣言した。しかしロシア側はこれを許さず、1994年に軍事侵攻を開始した。以来10年続く戦争によって、20万人以上の人命が失われているとされる。

### ディアスポラたちの戦い

トルコやヨルダンに移住した人々の末裔たちは、不安定な情勢の続くカフカスを注視している。ゼキエ・トスンさんの六代前の祖先が生きたカフカスでは、チェチェン戦争が現在も続いている。ディア

スポラたちには、そして、私たちには、何ができるのだろうか。

### カフカスのためにできること

ゼキエさんの祖先（6代前）の出身地は、チェチェンに近いカフカス地方。カフカス人としての意識の目覚めは、18歳のとき。日本には日本語を学びに来ただけだったがチェチェンから遠く離れた日本に支援運動があると知り、驚いたという。日本人がチェチェンに関心を持っていることに対して、彼女は「感謝します」という言葉を口にす。その言葉の背景にある、彼女とカフカス人のアイデンティティーについて、話を聞きます。

会場ではチェチェン難民の、ミニ写真展を開きます。ポストカードなども販売する予定です。収益は難民支援にあてられます。

ルのチェチェン難民キャンプへの支援と、カフカスにおけるロシアの政策のもとら混乱に対する問題提起を続けている。トルコでは、大学のトルコ・日本交流会に所属。

カフカスヤ・フォルム：

<http://www.kafkasyaforumu.org/>

ています。将来、トルコのチェチェン支援組織をはじめ、海外のチェチェン戦争に反対する人々との連携を深めるために、この報告会を行います。私たちは、チェチェン戦争が存在することを、日本で広

め、反戦の機運を盛り上げていきたいと考えています。ボランティアとして参加したい方は、ぜひ集会にご参加ください。また、お問い合わせも歓迎します。

こちらまで：[ootomi@chechennews.org](mailto:ootomi@chechennews.org)